

## 令和元年度 横須賀美術館運営評価委員会

### ●横須賀美術館運営評価委員会（令和元年度第1回）

日時：令和元年（2019年）7月16日（火）14時～16時

場所：横須賀美術館 会議室

#### 1 出席者

委員会	委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授
	委員（委員長職務代理者）		
		菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事
	委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長
	委員	草川 晴夫	観音崎京急ホテル取締役社長
	委員	丹治 美穂子	横須賀市立鶴久保小学校校長
	委員	祓川 由美	市民委員
館長	教育総務部長		志村 恭一
事務局	美術館運営課長		菅野 智
	美術館運営課広報係長		相良 泉
	美術館運営課管理運営係長		高橋 博之
	美術館運営課（学芸員主査）		工藤 香澄
	美術館運営課（学芸員主査）		富田 康子
	美術館運営課（学芸員）		日野原清水
	美術館運営課（管理運営係）		小川淳太郎
	美術館運営課（管理運営係）		鈴木 渚

#### 欠席者

委員会	委員	本間 康代	市民委員
-----	----	-------	------

#### 2. 議事

- （1）平成30年度の運営評価について
- （2）平成31年度の事業計画書について

#### 3. その他

- （1）今後のスケジュールについて

## 会議録

### 【開会】

〔事務局・菅野課長〕：定刻になりましたので、「令和元年度 横須賀美術館運営評価委員会 第1回」を開会いたします。開会にあたりまして、横須賀美術館館長事務取扱、教育総務部長 志村より、ごあいさつさせていただきます。

〔志村部長〕：4月1日付けの人事異動に伴い、教育総務部長、横須賀美術館長に新たに就任いたしました志村でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、ご多忙の中、令和元年度 第1回 横須賀美術館 運営評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、本日の委員会開催にあたり、委員の皆様には、お忙しい中、平成30年度事業に対する二次評価を行っていただき、重ねてお礼申し上げます。

本日の委員会では、委員の皆さまからいただきました二次評価について、ご議論いただき、平成30年度の評価を確定いたします。

委員の皆様のご意見のひとつひとつを、今後の運営に生かし、さらに一層の努力や工夫を凝らして、多様な学びを生み出す美術館を目指し引き続き努力してまいります。

令和元年度の美術館は、最初の展覧会である「センス・オブ・スケール展」が目標観覧者数20,000人に対し観覧者数が36,292人となり達成率181.5%と大変好評をいただき素晴らしいスタートを切ることができました。現在開催中の「せなけいこ展」も7月6日から開催し、すでに7,000人を超え、こちらも非常にご好評いただいております。合わせてすばらしいスタートが切れたと考えております。

今年度も展覧会、ワークショップ、コンサート、学校連携など様々な活動を通じ、市民の皆様にも多様な美術の表現に触れる機会を提供し、学びを生み出す美術館を目指してまいります。

それでは、本日もよろしくお願いいたします。

〔事務局・菅野課長〕：ここで少しお時間を頂戴しまして、事務局職員の異動がありましたので、紹介をさせていただきます。4月1日付けの人事異動により管理運営係主任の秋山が逸見行政センターへ異動いたしました。その後任として新たに管理運営係主任として美術館広報係から課内異動となりました、小川です。

(小川 自己紹介)

それでは、進行を進めさせていただきます。

－ (資料確認・略) －

以上が本日の資料です。不備等ございませんでしょうか。

それでは、小林委員長、議事の進行をお願いします。

【議事（1）平成30年度の運営評価について】

〔小林委員長〕：次第に沿って議事を進めさせていただきます。「議事（1）平成30年度の運営評価について」事務局は評価の進め方、報告書の体裁等について説明をお願いします。

〔事務局・菅野課長〕：資料1「平成30年度 横須賀美術館 評価報告書（二次評価まとめ）」ですが、皆様からお送りいただきました二次評価の結果を事務局でまとめたものでございます。

この資料をもとに、後程ご議論をいただきたいと考えております。

ご承知のとおり、①から⑧の目標があり、それぞれに「達成目標」と「実施目標」があり、16の評価項目となっております。

次に、二次評価確定の進め方について、ご提案させていただきます。

事務局からは、最初に①の目標について、一次評価及び委員から頂戴した二次評価の説明を簡潔に行います。

委員の皆様には、委員会としての二次評価についてご議論いただき、評価を確定していただきます。以降、順次目標ごとに繰り返し、進めていきたいと考えます。

また、評価報告書の体裁ですが、昨年どおり、コメントは同様のご意見を1つにまとめ、すべて掲載をしたいと考えます。

よろしければ、いままで通り、コメントのうしろにカッコ書きで記名をさせていただきますと考えております。

以上でございます。

〔小林委員長〕：進め方、評価報告書の体裁についてですが、いかがでしょうか。

まず目標①から、事務局は説明をお願いします。

〔事務局・相良〕：それでは、資料1「評価報告書 二次評価まとめ」及び、「評価報告書 一次評価」に基づき、目標ごとにご説明申し上げます。評価報告書（一次評価）の1頁をご覧ください。

私からは、「I美術を通じた交流を促進する」のうち、「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる」の一次評価について、ご説明させていただきます。

ご説明の前に大変申し訳ございませんが訂正箇所がございます。一次評価の理由の観覧者数が111,433人となっておりますが、111,431人が正しい数字となります。ご修正のほどよろしくお願いいたします。

まず、平成30年度は、達成目標の年間観覧者数100,000人に対し、実績は、111,431人となりました。達成率111%と目標を上回ったことからA評価といたしました。

前年度に比べますと観覧者数は減少していますが、開催された6つの企画展のうち、「集え！英雄豪傑たち」展以外の5つの展覧会で目標を達成するなど、年間を通し、順調に観覧者数を伸ばして2年連続で11万人を超える数字となりました。

次に、2頁をご覧ください。

実施目標の「様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する」ほか4件ですが、一次評価としましては、各目標についての評価を総合して検討した結果、いずれも目標を上回ったことからA評価としました。

なお個々の実施目標の結果状況についてはこれから順にご説明いたします。

3頁をお開きください。

実施目標の1番目「様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する」については、(1) 訴求活動による集客促進をご覧ください。

3頁の表に記載のとおり新聞雑誌等への無料での情報掲載は320件と目標の220件を上回りました。またツイッターのフォロワー数は9,244人と前年度に比べ大きく増加しています。

4頁をご覧ください。

実施目標の2番目「各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす」については、(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進をご覧ください。

新規の企画も含め記載のとおりイベントを行いました。野口久光展では、ジャズ評論家としても知られている野口久光さんにちなみ、海の広場を使つての横須賀シーサイドジャズコンサートを開催し、多くのお客様を集めました。

年間パスポートや前売券の販売状況は表に記載されているとおりです。

実施目標の3番目「外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する」については、4頁から5頁に記載されています(3) 外部連携の推進をご覧ください。

記載のとおりカレーフェスティバルなどのイベントへの協賛、観音崎フェスタへのブース出展などの地域活動への参加などのほか、レストランアクアマーレの食事券と観覧券をセットにしたふるさと納税の商品提供、京浜急行電鉄との連携事業として「よこすか満喫切符」など他部局や民間事業者、また近隣地域との連携などを積極的に進めました。

5頁をお開きください。

実施目標の4番目「旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する」については、(4) 団体集客の推進をご覧ください。

平成30年度の団体観覧者数は、前年に比べ大幅に増加しています。美術館での団体集客への取組の結果として、クラブツーリズムなどの募集型旅行が増えていることが増加の一因であります。今後も引き続き団体集客の推進に努めたいと考えています。

最後に実施目標の5番目「商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る」については、(5) 商業撮影の受入と誘致をご覧ください。

商業撮影につきましては、前年より増加し、目標としていた30件を達成しました。主なものとしては、ミュージックビデオ、ファッションブランドの広告なども美術館名のクレジット入りで放送、掲載されており、横須賀美術館の認知度向上につながったと考えています。

私からの説明は以上です。

〔小林委員長〕：今説明していただきました「① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる」から進めさせていただきます。一次評価の達成目標はA、実施目標はAということに関して、委員の皆様にご確認いただき、各委員が評価された結果を二次評価としてまとめております。

まず、達成目標は委員全員がAとなっていますが、柏木委員のコメントが入っていますので補足を含めてご意見ををお願いします。

〔柏木委員〕：評価としましては、数値に関する指標がでていましたのでそれに照らしてAとしましたが、ここ数年、年間観覧者数は11万人を超えているというところがありますので目標観覧者数を少し上げることも良いのではないかと感じました。

〔小林委員長〕：草川委員はどうでしょうか。

〔草川委員〕：企画展示が見込みを上回っている点は大いに評価できると考えています。今お話しありましたとおり年間観覧者数は10万人以上なっておりますので、目標をあげた方がよろしいかと思っています。ただ英雄豪傑たち展が見込みを大きく下回ったと事業報告書を読ませていただきました。理由づけ、動機づけというか、お客様に日本画や歴史に興味関心を引かれた方には来ていただいたと書かれていたのですが、このような企画展は今後やらないほうがいいのか、あるいはさらに興味を引かなかった方にどのように興味をもってもらおうのかを考えたほうが良いのかと感じました。

〔小林委員長〕：評価としてはAということですね。委員全員Aと書かれていますので一次評価と同じAということでしょうか。

(異議なし)

〔小林委員長〕：では二次評価はAとさせていただきます。

次に実施目標ですがこの点に関しまして菊池委員からお願いします。

〔菊池委員〕：フィルムコミッションに目がいったのですが、美術館の認知度も上がりますし、収益につながるということでこのような積み重ねが大事なのかと思います。また、メディアに対する直接的なアプローチも順調に進んでいると思いますが、部局との連携などの間接的なアプローチも影響が出ているのではないかと感じています。文化スポーツ観光部や政策推進部など幅広い部局と連携していることが認知度など色々良い効果を生み出していると感じました。

〔小林委員長〕：柏木委員は、達成目標と連動する形で評価されていますが何かコメントがありましたらどうぞ。

〔柏木委員〕：広報面でも数字的にも、日頃の広報活動にも積極的に取り組んでいますし、英雄豪傑たち展がなぜ集客につながらなかったのはこれから分析が必要ですが、他の展覧会がすべて目標を大きく上回っておりますので実施目標で掲げた取り組みが達成目標に結びついていると考えます。

〔小林委員長〕：祓川委員はいかがですか。

〔祓川委員〕：美術館のイベントに参加された方がイベントの内容が非常に面白かったとおっしゃって、チラシを皆に勧めている姿をよく目にします。いい流れができていると思っています。

〔小林委員長〕：ほかにご意見はありますか。皆さんAということでよろしいですか。

(異議なし)

〔小林委員長〕：二次評価Aということで、一次評価と同じにさせていただきたいと思っています。

②の「市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」について説明をお願いします。

〔事務局・日野原〕：一次評価書の7頁をご覧ください。

「②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」について、説明します。

達成目標は、「市民ボランティア協働事業への参加者数延べ2,400人」です。平成30年度の延べ参加者数は2,507人となり、目標を上回りましたので、一次評価をAといたしました。

なお、草川委員のコメントのとおり、前年度の平成29年度は目標2,000人に対し延べ参加者数が2,693人であったため目標設定を2,400人に引き上げております。

菊池委員からご指摘のありましたイベント参加者の減少理由につきましては、イベントの内容がGWはお花をつくる、夏休みはTシャツペインティングと、材料に限りがあったため参加人数が絞られることになったためと考えております。平成29年度はGWがガリバーキャンバスやとぼそうシャボン玉など10ヶ所のポイントをまわる「ぐるぐる10」、夏が海の広場での水遊びであったため多くの方に参加いただきました。

次に9頁、実施目標でございます。

実施目標は「市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。」「市民ボランティアが、やりがいをもっていきいきと活動できる場を提供する。」の2点です。一次評価はAとしました。

各分野の活動内容につきましては、評価書に記載のとおりです。委員皆様にコメントを頂いたように、ほぼ平成29年度並みの活動を行ないつつ、改善を試みています。なかでも、ギャラリートークボランティアでは、従来の研修内容を見直し、ボランティア

が作成したトークプランを、学芸員がチェックすることを繰り返すようにしました。普段は所蔵品展のギャラリートークを行っていますが、11月3日の無料観覧日には事前に準備して企画展のギャラリートークを行うなど活動に変化をもたせました。それによってギャラリートークに対するボランティアさんの姿勢・態度・技術も向上しているように思われます。②については以上です。

〔小林委員長〕：まず達成目標についてコメントを頂いた菊池委員から、「参加者減少を検証」と書いてS評価になっていることについてご説明をお願いします。

〔菊池委員〕：数だけではなくここを検証しないと。前年と同じことでなぜ参加者が減ったのか、それとも何か別の工夫をすることでキャパシティに限界があってこのようになったのであれば増えようがない。そこを検証することでSなのかAなのか決まると思います。いまのお話をお聞きして、去年と違ったイベントをやったときに、企画側としてはどのような状況だったのでしょうか。参加希望者がMAXまで来てお断りする状況だったのか、それとも意外と空いていたのか。

〔事務局・日野原〕：MAXで来ていたという認識です。お花の材料は先着順で数に限りがありまして、お花遊び参加できない方に模様描きのようなのも用意していたが、海の広場のシャボン玉遊びなどに比べると限界がありました。

〔菊池委員〕：去年の2,000人から今年は2,400人に目標数値を上げたことに関して、先ほどの見方とは私は少し違った見方をされていて、数値が上がってきたからと言って目標数値を上げると企画の幅が狭められてしまい、今言ったようなことが出来なくなるのではないのでしょうか。企画の内容を見るとAではなくSなのではないかと思います。企画どおりに行い、お断りするくらい人が来ても、前回の1,363人を越えられないような企画をあえて打っている。けれど目標値は前年度の1,363人をベースに2,400人に上げたことでAになってしまう状況だと思います。Sにするために平成29年度のようなイベントをしないとこの数字にいかない、とすると平成30年度のように好評だけど小人数しかできないものはあえてAになることを前提にやらなければならない。これは学芸員のモチベーションにどう関わってくるのかと思いました。あえてSと書きましたが、この部分は理由も分かりましたし仕方ないことと思います。本当はSだけどAでもいいと思います。この部分の努力は実施目標でSとして評価にしたいですね。

〔小林委員長〕：いまの菊池委員の意見、大変貴重ですので、ただ数の論理だけで考えていると大変だという考え方に触れておられました。草川委員いかがでしょうか。

〔草川委員〕：自分は数で評価させていただいて前年目標が2,000人で目標を2,400人に上げたにも関わらずクリアしたということで、数字からするとA評価が妥当ではないかとさせて頂きました。

〔小林委員長〕：他の委員の皆さんご意見何かございますか。お二人にコメントを頂き、それを踏まえて何かご意見ありましたらよろしく願いいたします。では丹治委員お願いいたします。

〔丹治委員〕：私も数値目標のところ非常に悩みました。数値目標が 2,000 人から 2,400 人になって S にするか A にするか悩んだところです。各回定員制のイベントであった、人数に限りがあった、参加者をカウントしていないイベントもあったということで単純に人数だけではないと思いました。ひょっとしたら 2,500 人よりも多いということで努力されているのが見えるため、私は S とさせて頂きました。

〔小林委員長〕：ありがとうございました。色々ご意見がでました。丹治委員は S でいいのではというご意見、菊池委員は実施目標ははっきりしているのですが、考え方としては、とのご意見をいただきました。

〔菊池委員〕：S をつける考え方としては丹治委員と同じなのです。2,700 人から 2,500 人に数字が下がったからと言っても、限界までやって工夫をして定員制の企画をやって成功している訳なので S でいいのではないかと思います。

〔小林委員長〕：これは考え方としては重要だと思います。そうでないと前年度に出た数字だけで求めていくと非常に苦しいものになってしまいます。菊池委員、丹治委員から出たご意見はこれからの評価に含めて頂ければと思います。大変重要なことだと思いますが、全体としましては A ということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

〔小林委員長〕：では達成目標は A にさせて頂きます。しかし考え方としては参考にして頂きたいと思います。

実施目標はいくつか意見が出ております。まず柏木委員よろしくお願いします。

〔柏木委員〕：達成目標は数値を設定しているのでそこを判断せざるを得ない。実施目標は将来に向けての課題や取り組みに対する改善点がきちっと分析されておりますので、私は S に近い A だと思っておりますが、S にしても良いのでは、と思っています。

〔小林委員長〕：ありがとうございます。草川委員いかがでしょう。

〔草川委員〕：一次評価の理由を挙げる限りでは、前年度と同様の活動をされているということで前年度と同じ S 評価でも良いと思いますが、さらに期待するのであれば A に近い S の評価をさせて頂いています。



〔小林委員長〕：丹治委員いかがでしょうか。

〔丹治委員〕：私は学校からの視点で見た時に、ボランティアの方々研修に出られることが随所に感じられます。小学校美術鑑賞会では子供たち、教員含め安心して鑑賞できるという所でその取り組みに敬意を表したいと思います。その点を維持向上させていくことが学校関係だけではなくすべてに通じているのだろうなと思います。そこだけを取り上げてやっておられるのではないのですが、十分S評価に値すると思っっています。初めて美術館に出会う児童が多いものですから、ボランティアの方々の引率は頼りがいがあると感じています。そこでS評価とさせて頂きました。

〔小林委員長〕：祓川委員いかがでしょう。

〔祓川委員〕：ギャラリートークのフォローアップ研修は、私の記憶だと、アンケート調査でギャラリートークに批判的な記述があって、学芸員がすぐに対応して「じゃあ、スキルアップ研修をしようか」ということになりました。アンケート結果を受けて、来館者目線で来館者の満足度を上げることをすぐに対応できるのはすごいなと思いましたのでSをつけました。

〔小林委員長〕：実施目標に書かれている「市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる」「市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる」という点につきましては、柏木委員も草川委員もA評価ですがSの方を向いているように思いますので、全体として一つの提起としてS評価でよろしいですか。

(異議なし)

〔小林委員長〕：ここはSにさせて頂きます。

確認させていただきます。②については達成目標二次評価A、実施目標二次評価Sということでよろしく願いいたします。

〔小林委員長〕：引き続き次の③の項目について事務局から説明をお願いします。

〔事務局・工藤〕：一次評価書の11頁をお開きください。

「Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める」の「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」についてご説明いたします。

達成目標を「企画展の満足度 80%以上」としております。平成 30 年度の企画展満足度が 87.4%となりましたので、一次評価の達成目標をAとつけております。要素別の満足度を検討しますと、「観覧料」「解説・順路」が80%を下回っており、相対的に低い数値となっております。観覧料や順路については改善が難しい点もあります。解説や文字の大きさについては引き続き改善を図ってまいりたいと思います。一方、「作品」「配置・

見易さ」は概ね高い数値となっております。

続きまして、実施目標についてご説明いたします。こちらは、「幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。」「所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。」「知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。」「美術への興味や関心が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を、図書室で収集・整理・保管・公開する。資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。」「主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。」こちらにつきましても実施目標はAといたしました。13頁から16頁に展覧会と教育普及事業の詳細を一覧表のように記載しております。これらを受けまして、達成目標、実施目標をAとつけました。説明は以上です。

〔小林委員長〕：ご説明いただきましたがよろしいでしょうか。達成目標に関しまして、菊池委員、コメントをください。

〔菊池委員〕：アンケートの回収率が極端に下がっています。そもそもそれまでも1.数パーセントでしたが1パーセント以下の回収率になっています。回収率をもう少し上げる努力を何かできないかと、課題として挙げさせてもらいました。

それから「解説・順路」については、児童生徒造形作品展以外は全部70%台、60%台もあります。そうするとかなり構造的な課題になっているということで、「解説」なのか「順路」がそうさせているのか、その分析はされているのかなど。いつもこうなのではないか、と思っています。「解説」であれば人的に直せますのでそれがアンケートの結果に反映されると思いますが、「順路」だとすれば構造的な問題があります。「順路」は作品のストーリーを途中で壊してしまうことになりかねないので、作品のストーリーをつなぎとめる工夫も必要かと思いました。

〔小林委員長〕：草川委員、いかがですか。

〔草川委員〕：評価自体はAでよろしいかと思いますが、「解説・順路」に構造的な問題はあるかと思いますが例年数値が低い。数年前までは「改善の余地がある」と記述されていましたが、前年から「改善は難しい」に変わっています。本当にそれが難しいのか、あるいは「解説」と「順路」は異なるので何かお客様にわかりやすい手だてがないかと思い、書きました。

〔小林委員長〕：何かほかにご意見ございますか。全体としてはご意見があり、改善は難しいけれども模索ができないのかというコメントもあります。全体としてはAということでもよろしいでしょうか。

（異議なし）

〔小林委員長〕：では「達成目標」の二次評価に関してはAとします。

それから実施目標に関しては、たくさん項目がありますが、柏木委員からコメントをいただきたいです。

〔柏木委員〕：先ほどアンケートの回答率の話がありまして、ずっと低い状態が続いています。もう少し母数を上げる工夫が必要な時期にきている気がいたします。その中で「解説・順路」の評価が低いとありましたが、アンケートの設定の仕方として、もしかして「配置・見易さ」と「順路」は近い性質のものであって、「解説」と「順路」は性質が異なるような気がしますので、より来館者が課題とと思っているところを正確にアンケートから抽出するのであれば、設問の仕方に工夫が必要なのかなと思います。

〔小林委員長〕：ありがとうございます。丹治委員いかがでしょう。

〔丹治委員〕：一次評価の理由に出されているように平成30年度の企画展というのはそれぞれテーマ設定をされながら観覧者数もそれぞれこのような結果になっています。それぞれ観覧者の興味に合う企画がなされたのではないかなと考えました。講演会やアーティストトークについて参加の状況や、ワークショップを工夫されている状況は資料や年間計画の中でも随所にみられましたので、固定的な来館者であっても満足度につながる中で、「美術に対する理解と親しみを深める」という点においてはつながっているのではないかと考え、Aといたしました。

〔小林委員長〕：祓川委員、市民ボランティアをされているのですよね。作家と来館者の交流という点でその空気がわかると思いますので、思っていることをお聞かせください。

〔祓川委員〕：確かに、「順路」は限界があるのかもしれませんが、作品に対する「解説」は少し改善の余地があるかなと思います。今回、アーティストトークが良かったなと思いました。作品の解説に限界がある中、作家がいらっしゃって、お客さんを前に、自分はこのような意図でつくった、という生の声を発信することで、お客さんの理解が深まり、そのあとに作品を見ると本当に面白い。たださらっと見て解説を読んだだけだとよくわからなかったことが、理解が深まったと様々な人から話を聞きました。アーティストトークに力を入れたのは良かったのではないかと思います、Sに近いAにしました。

〔小林委員長〕：皆さんAですので実施目標につきましては二次評価Aということでしょうか。

(異議なし)

〔小林委員長〕：では、④「学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」に

つきまして、事務局から説明をお願いします。

[事務局・富田]：一次評価報告書の17頁をご覧ください。

「④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」についてご説明申し上げます。達成目標の「中学生以下の年間観覧者数22,000人」に対し、平成30年度は20,805人と、目標値の94.5%にとどまりましたので、達成目標をBといたしました。

実は、この項目は、平成26年度から継続して目標値を達成してきた部分ですが、平成30年度は久しぶりに目標を達成することができませんでした。展覧会の観覧者の総数が減っているわけではないので、平成30年度に関しては、観覧者に占める中学生以下の観覧者の比率が下がったという状況でございます。

理由としましては、もちろん少子高齢化という長期的な社会変化も考えなければなりません。平成30年度に関しては、むしろ、展覧会内容の反映という面が大きいと捉えております。具体的には、夏休み期間中に開催した「三沢厚彦 ANIMALS in YOKOSUKA」を除くと、家族層にアピールする要素が少なく、若年層の伸びにつながらなかったということでした。

参考資料集の6頁に企画展ごとの観覧者の年齢、また56頁に中学生以下の月ごとの観覧者数が記載されております。こちらをご覧くださいでしょうか。特に6頁の「企画展ごとの観覧者の年代」というところをご覧くださいますと、平成30年度は、観覧者の中で50歳代以上の方たちの割合が高くなっていることがおわかりいただけると思います。

こうしたことから見て、この項目は、展覧会の内容の影響を受けやすい項目、したがって、年間の展覧会の内容、またその組み合わせによって達成度が左右されがちな項目であると考えます。今後の目標達成に向け、家族層に向けた積極的なPRに取り組むことはもちろんですが、年間の展覧会計画そのものについても、家族層に向けた展覧会の年間の実施回数などを検討し、改めて目標達成に向けた取り組みを強化する必要があると捉えております。

続いて、実施目標についてご説明申し上げます。評価報告書の18頁をご覧ください。

こちらに6つの実施目標を記載してあります。「学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。」、「学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。」、「学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。美術館を活用した鑑賞教育がもっと充実するよう、アートカードの活用促進をはじめ教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。」、「子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。」、「鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。」この6項目でございます。これらについては、計画通り事業を実施しましたので、一次評価をAといたしました。

このうち特に、児童生徒造形作品展については、ここしばらく観覧者数が伸び悩んでいたところ、広報の工夫によって1割以上の観覧者の伸びを見ることができました。

このほか、実施した事業の詳細と、それぞれの成果については19頁の[一次評価の理

由]にまとめましたので、別途お目通しください。④については、以上でございます。

[小林委員長]：丹治委員から「学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」について、お話いただけますか。

[丹治委員]：昨年もお願いをさせていただいているとおりでありますが、まずは子どもたち、保護者が来館しやすい長期休暇期間中に、来館しやすい企画をしていただいていることについて、たいへん感謝しています。土日があっても、なかなか子どもたちの土日のフォローが自由にできるほどのゆとりがないという現実を見ますと、長期休暇期間中、自由に来館できることが何よりも子どもたちの興味関心に大いに役立っていると思います。

それと昨年も申し上げたのですけれども、学校連携ということでは、「モダンアート再訪」展の時に、パンフレットやチラシにはない情報として、展示されている作品のなかで、どの作品が教科書に載っているのか、何年生の教科書に載っているのかということが書かれた案内のチラシを学校に配布していただきました。そのようなところでも、子どもたちが美術に興味を持ち来館への啓発活動に努力されていると思います。

しかし、現実として人数が増えていかないのは、まだどこかに打つ手があるのではないかと考え、達成目標についてはBといたしました。これは美術館だけではなく、学校と連携し、ということですから学校からも要望を出していく必要もあるだろうなという反省も込め、Bとしました。

[小林委員長]：ほかにご意見ございますか。では、委員の方が全員Bとつけていますから、ここはBでよろしいですか。

(異議なし)

[小林委員長]：実施目標ですが、私がほかの委員の方と基準の合わない評価をしております。これは、私の思いなのです。横須賀という地域性を考えて、せっかく素敵な美術があるなら、小学校、中学校と連携を図って、特徴ある美術館として、他のところのない学校教育との連携を図る美術館にならないかと思うのです。横須賀の初等教育の一つの特徴として、学校への働きかけはもっとできそうです。

イギリスでは本当に初等教育と美術館が密着しており、ナショナルギャラリーなどは、子どもたちが寝そべりながら絵を鑑賞するような状況です。また、小さな町でも、美術館があって、そこに子どもたちが出掛け、自分たちの夢を膨らましているのです。イギリスでは、「美術館は子どもたちの心の福祉だ」というような表現も使っています。そういう意味で、せっかくのこの走水、観音崎という素敵なおところにあるので、もう少し学校教育の中うまく組み込めないのかという願望があり、私の評価が厳しくなっています。

柏木委員は、S評価をしてくださっていますが。

[柏木委員]：この年の企画展のラインナップは、先ほどのお話にもありましたように、比較的中高年の方をターゲットにした内容で、それが結果にも出ていたような状況ですが、そういった企画のラインナップ、また、限られた人材資源の中で、かなりの努力、子ども向けの企画を実施する努力をしておられるというのが私の印象です。

ただ、先ほど丹治委員から、学校と連携するという意味では、まだまだ努力する余地があるというお話がありましたので、そこは現場からのご意見として勘案すべきなのかなとは思いました。

[小林委員長]：丹治委員、いかがでしょう。

[丹治委員]：ここに書かせていただいておりますが、子どもたちの発達段階を考慮した様々なワークショップを企画していただいているということで、人数的に限られているところがあるかもしれませんが、子どもたちが美術に親しむ機会という意味では、本当に努力しておられるのではないかと考えています。

[小林委員長]：ほかにどうですか。

[菊池委員]：全体的に言えることですが、やはり以前と比べると評価のレベルがどんどん上がってきて、評価しがいのあるものになってきていると思います。私はここで、「年度における企画ターゲットと目標値の整合性」と書かせてもらったのですが、先ほど、柏木委員からも事務局からもお話があったとおり、今年度は、企画展全体として中高年の方たちをターゲットにした企画が多かったとすると、今年は最初から、ここが目標に達しないことは分かっていたのではないかと思います。ターゲットを絞っていくと、必然的に他に手が回らないというか。先ほどのボランティア活動の参加者数の目標値と実績のこととは、ここはまた性格が違って、中学生以下の年間観覧者数の目標を 22,000 人とするとなると、これはやはり別枠でやらなくてははいけないかなと思います。それが、全体が中高年の企画展だからという理由で、ここが少なくなるというのは、看過できないと思っているので、そういった意味で、ここに「企画ターゲットと目標値の整合性」と書いたのですけれども、事業計画の中で、ここは別枠で捉えていく必要があると思います。

[小林委員長]：一つの考え方として大変重要だと思います。数だけが独り歩きしてしまうと厳しいことになってしまいますが、せっかく学校教育と美術館との連携に取り組んでいるわけですし、こういうことにも取り組んでいただいて、横須賀美術館としての特徴が出るように、今後もぜひよろしく願いいたします。

では、菊池委員からのご意見もありましたが、実施目標は、Aということでよろしいですか。

(異議なし)

[小林委員長]：では、Aということで、お願いいたします。

次に「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」に関して、事務局から説明をお願いします。

[事務局・日野原] 20 頁の「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する」について、説明いたします。

この項目は、美術品の収集・保存・管理等に関する項目です。達成目標は、環境調査を実施する回数 2 回、美術品評価委員会を開催する回数 1 回としております。そのうち、環境調査につきましては、従来よりも調査範囲を拡大して実施しました。環境調査、美術品評価委員会のいずれについても、目標の回数を実施しておりますため、一次評価は A といたしました。

次に実施目標は、作品の収集活動、保管環境、修復・額装、貸し出しについて、それぞれ望ましい姿を掲げております。

まず、収集活動については、地域にゆかりのある作家の作品を中心に、作品、資料を合わせて 36 点の寄贈を受け入れました。詳細については次の 21 頁にございます。

また、長らく課題であった作品購入を可能にする仕組みづくりについて一歩前進し、令和元年度より新たに基金を設けて、「ふるさと納税」の寄附金を作品購入のために積み立てる道筋をつくりました。

次に環境調査について、平成 30 年度は範囲を拡大し、展示室および図書室の閉架書庫についても、昆虫類の調査を行ないました。その結果展示室の一部に、シミをはじめとする昆虫類が確認されました。この結果を受けて、調査後の 9 月 9 日に、本館の企画展展示室を対象として、害虫防除のための薬剤散布を行いました。

このことについて、菊池委員、草川委員より展示室の環境についてのコメントを頂きました。展示室は、各出入り口の二重扉や、日々の清掃によって外部の虫などが入って来ないように管理されていますが、人や物の出入りが制限されている収蔵庫と比べると、建物の外により近い環境といえます。今後も定期的な調査を続け、状況によって薬剤散布等の措置を行うことで、改善につなげていきたいと考えています。

その他、必要に応じて作品の額装、外部への作品貸出を行いました。作品購入スタートの道筋がついたことで従来 C 評価であった部分が改善したと考え、また環境について新たな課題が見つかったことで今後さらに改善すべきことから、一次評価は B としました。⑤については以上です。

[小林委員長]：「所蔵作品を充実させ、適切に管理する」はいつも問題になっているところですが、達成目標について何かご意見ございましたらどうぞ。これは一次評価で書かれたことで委員の皆さんが納得されて理解を示したということによろしいですか。

[柏木委員]：実施目標は私のほうで S 評価をつけさせて頂いたのは、地方自治体の美術館は一部を除きどの館も購入資金がない中で、横須賀美術館は 10 年以上購入がないという状況が続いていますが、美術品購入でコレクションを充実させていくことは館とし

とても重要だと考えています。その道筋を館だけではなく行政の皆さんも同じ方向を向いてどんな方法があるかということを検討し、購入に向けての道筋を横須賀美術館、横須賀市がひとまずつけていったということは高く評価しなければいけないと私は思っています。それは長年懸案だったと思いますし、他の自治体でも財源確保はなかなか難しく、本庁の中の担当部局だけが努力してどうなる問題でもないのです、その意味で評価すべきだろうと思っています。ただ、購入はまだ実現していませんのでこの時点でSとするのは早すぎるかもしれません。

〔小林委員長〕：他に意見ございますか。達成目標につきましていかがでしょう。一次評価と同じAでよろしいですか。

(異議なし)

〔小林委員長〕：それでは実施目標につきまして、今、柏木委員から将来的な、今後の展望を踏まえた形で期待も出ていますけれども。まず菊池委員、何かコメントありましたら。

〔菊池委員〕：さっきも事務局から説明があつて、草川委員も同じことを指摘されていて、環境調査はこのように拡大して今後改善ができるということですか。

〔事務局・日野原〕：継続して調査を毎年やっていくことで変化が分かるようになりますし、悪化した場合は薬剤散布などを検討します。

〔菊池委員〕：建物の構造的な問題でなければよいです。

〔小林委員長〕：よろしいですか。

〔菊池委員〕：はい。

〔小林委員長〕：柏木委員いかがでしょう。

〔柏木委員〕：環境調査については受贈による作品収集が行われている中で新規収蔵品の燻蒸が行われているかどうか、いかがでしょう。

〔事務局・日野原〕：物によって、明らかに燻蒸が必要と判断した物については行っています。ただ毎年一律に燻蒸をするのではなく、物を見ての判断になります。

〔柏木委員〕：虫食、虫損があるものについては館内では難しいかもしれないので外部に委託して燻蒸することになるでしょうし、そのような取り組みが環境全体につながって



いくと思います。このような自然環境の中に建っている美術館ですので、すべての虫害をシャットアウトするのはなかなか難しいと思います。

〔小林委員長〕：草川委員いかがでしょう。

〔草川委員〕：環境調査の範囲を拡大したというのは前向きでよろしいかと思います。展示室にシミが出たとかですか、それは改善できるということなのでそのままやっていただけだと思います。

〔小林委員長〕：丹治委員いかがですか。

〔丹治委員〕：環境問題については、次年度の課題のところに「必要に応じて改善の措置を行います」ということで、私自身よく分からない所で受け入れているところですが、草川委員がお書きになったように「展示室が必ずしも良好でないことが分かった」というのはどきっとする所でありますので、大丈夫なのかと思いました。そういうことがあれば教えて欲しいと思います。

〔小林委員長〕：祓川委員いかがでしょう

〔祓川委員〕：害虫をすべて駆除するというのが私も良く分からないので。

〔小林委員長〕：柏木委員はたくさんコメントをつけて下さいました。横浜美術館の実際責任者でいらっしゃるんですが、今の横須賀美術館の現実などを見るとこれは大変だぞということと将来の方向が少しずつ模索されていることを評価されてSとされたのだと思いますが、皆さんこの評価につきましてはいかがでしょう。なかなか難しく、多くの方がBだからBにしようといかない部分もあります。また、積極的にBではという意見もありますので、どうしたらよろしいでしょうか。

〔柏木委員〕：期待を込めて、水準にあるということで、Bでよろしいのでは。

〔小林委員長〕：そうですね。そのように柏木委員からお話がありましたので、ここは一次評価と同じかたちで二次評価をBとさせて頂きたいと思います。財源の問題は実際には色々大変かとは思いますが、是非見通しをつけていただければと思います。二次評価Bでよろしいですね。

(異議なし)

〔小林委員長〕：次に⑥項目、利用者にとって心地よい空間・サービスを提供するについて説明を願えますか。

[事務局・高橋]：「⑥利用者にとって心地よい空間・サービスを提供する」について説明いたします。一次評価報告書 22 頁、二次評価まとめ 6 頁をお開きください。

まず達成目標ですが、館内アメニティ満足度 90%以上、スタッフ対応の満足度 80%以上という目標に対し、22 頁下の表のとおり、平成 30 年度はそれぞれ 95.1%、88.5%と目標を達成しましたので、A評価といたしました。

次に、実施目標について、一次評価はAとしました。評価の理由として、23 頁に記載しました 3 つの目標に対して、23 頁中段から 24 頁まで、平成 30 年度に実施した内容を掲載しております。

実施内容をいくつか紹介いたしますと、23 頁中段【一次評価の理由】のメンテナンスに記載しましたように、展示棟ガラス改修工事や空調熱源設備修繕など経年劣化した設備の修繕を行いました。

次に、受付・展示監視についてですが、平成 26 年 10 月に現在の事業者が業務を開始して以来、達成目標にもありましており、スタッフ対応の満足度を高水準で維持しています。これは、受託事業者の努力だけでなく、事業者と事務局で課題等の情報共有を行い、日々改善がなされているためと考えます。

次に 24 頁中ほどの「ミュージアムショップ」につきましては、平成 29 年 1 月に事業者が交代し、従来水準以上を目指して事業者と協力しております。平成 30 年度にはクレジットカード、パスモ、スイカが使えるようになりました。今後もお客様の満足度が向上するよう、事業者とともに一層の努力を重ねてまいります。

⑥の説明は以上です。

[小林委員長]：今、説明いただきましたが、いかがでしょうか。菊池委員から、入口、トイレの表示案内の件でご意見をいただきました、少しご説明いただけますか。

[菊池委員]：この話は、前にもあったのではないかと思います。数字的には前年度より高い水準となっておりますが、入口、トイレの表示案内の分かりにくさについて、何か対策が必要でないかと思っています。建物の景観を損なうのは良くないと思いますが、細かなところですが何らかの対策が必要ではないかなと思っています。今年から特別に出た話ではないのですが以前からの話でありますので、多くの方がこのように思っているのではないかと思います。

[事務局・高橋]：入口の分かりにくさについては、ご意見をいただいておりますので、現在の「せなけいこ展」でも設置していますが、展覧会に関連したフラッグを入口前に設置することで分かりやすくしています。フラッグの近くには美術館入口の表示板が設置されています。以前はフラッグがなかったことから入口部分が分かりにくいというご意見もありましたので、改善をいたしました。

トイレの館内看板については、現在職員による手作りの看板もあるので、改善の余地はあるかと思っています。近くデザイナーと打ち合わせを行い改善できたらと考えております。

〔小林委員長〕：草川委員いかがでしょうか。

〔草川委員〕：達成目標は前年度S評価を付けましたが、ここまで高い数値なのに一次評価はSではないのはなぜでしょうか、何か問題がありましたか。

普通ならSを付けても問題はない数値と思います。

〔事務局・高橋〕：平成31年3月の運営評価委員会の席で、事務局から一次評価の基準作成について報告いたしました。

その基準では、達成目標がSとなるには目標の1.2倍以上と基準ではなっていますので、一次評価についてはA評価とさせていただきます。

この基準はあくまで一次評価を行う際の目安であるため、本日の二次評価については、基準に縛られることなく議論の中でご判断いただければと思います。

〔草川委員〕：私はSで十分でないかと思っております。

〔小林委員長〕：丹治委員もSを付けていただけていますが、コメントをいただければと思います。

〔丹治委員〕：昨年度Sであり、昨年度より数値が上回っていることを見たときに、これ以上の事が何かできるのでしょうかとの思いもあります。

高い数値を見ると、大変努力されているのではないかと思っておりますので、S以外ないと思っております。

〔小林委員長〕：柏木委員の評価を見ますと、美術館のハード面の経年劣化という不可避の要因に影響されるなか、高い水準を保っているというコメントをいただいておりますが、Sに近いA評価なのでしょうか。

〔柏木委員〕：皆さんおっしゃるとおり目標は高い水準でありますし、達成しているところも大きいのですが、先程事務局から説明がありましたとおりSとする場合、一次評価の基準では1.2倍以上と基準がありますので、私は数値目標については、それを基準としてA評価といたしました。

おっしゃるとおりかなり高い水準であると思います、取り組んでいる目標を見て考えてもいいのかと思います。

〔小林委員長〕：全体的に見て、非常にアメニティの満足度が高いようですので、よろしければ達成目標の二次評価はSとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

〔小林委員長〕：それでは二次評価はSということで。全体的な議論の中で皆様にお諮りして決まったこととしたいと思います。

〔小林委員長〕：次の実施目標については菊池委員いかがですか。

〔菊池委員〕：建物の経年劣化は否めないのですが、ただそれを元に戻すこともできないので、メンテナンスの範囲を超えられませんので、当然Sとはならないと思います。メンテナンスを行っていない場合はBでしょうが、これはAでよいと思います。将来的な問題として横須賀市ではファシリティマネジメントを行っていますが、建物は10年経過すると急激に劣化が進んでいきます。今後、構造的な修繕が確実に必要となってきます、今回の評価とは別となりますが、これからが心配です。

〔小林委員長〕：祓川委員いかがですか。

〔祓川委員〕：私はスタッフの方の印象がよくなったなと思いました。

先程の案内サインの件ですが、エレベーターのサイン案内についても検討いただければと思います。地下所蔵品の最後に地下から一階に上がるエレベーターの表示が分かりにくいいため、私も何度か聞かれたことがあります。監視員の方もいない場所であるので、検討の中に入れていただければ。

〔事務局・高橋〕：現場を見て改善できるようであれば検討します。

〔小林委員長〕：草川委員からS評価をいただいておりますがお願いできますか。

〔草川委員〕：同じ環境、条件で、施設運営を行っている者として、皆様のご苦勞は分かります、施設の劣化は当然ながら起こってきます。運営側としては十分な改修やメンテナンスが行われ施設が保たれていると思います、施設以外の人的サービスもよく行われていますので、私はSかと思っています。

〔小林委員長〕：全体的にAのご意見が多いので、Aとすることで、皆さんいかがでしょうか。

(異議なし)

〔小林委員長〕：それではAとします、草川委員のS評価は非常に褒められることと思いますので大切にさせていただければと思います。全体の意見の中で二次評価をAとしたいと思います。

次に、「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える」について説明を願えますか。

〔事務局・富田〕 評価報告書の 26 頁をご覧ください。

「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える」についてご説明いたします。この項目では、障害をもつ方々を対象とした事業をはじめ、未就学児向け事業なども含む福祉関連事業について評価しております。

まず、達成目標である「福祉関連事業への参加者数のべ 360 人以上」に対し、平成 30 年度の実績は 426 人となり、目標を 118%の達成率で達成しましたので、一次評価を Aとしました。

事業ごとの人数については、26 頁の下の段の表をご覧ください。

ほぼすべての事業について、参加人数を伸ばすことができます。これは、各事業について、こちらは障害当事者の方に向けた事業、こちらは福祉関連施設のスタッフの方に向けた事業というように、各事業の対象をその都度絞り込み、関連施設等の協力を得ながら、それらの方々に着実に情報が伝わるよう努めたことの効果という面が大きいと捉えています。その点は、単に人数が増えたこと以上に意味があるのではないかと考えております。

なお、二次評価の中で、菊池委員から、オプション企画の参加者数を目標値に組み込むことの妥当性についてのコメントをいただいております。これは、MULPA の参加者数を目標値に組み込むことについてのご指摘かと思いますが、MULPA は、平成 29 年度のみスタート年度ということで複数機関によるフォーラムを合同開催しましたが、その後、平成 30 年度から令和 2 年度までは、参加館が単独で事業を企画し実施することとなっております。

したがって今後、令和 2 年度までは、オプション企画ではあるのですが、この目標の中に組み込み、それ以降については、当館の既存事業の中でどう吸収していくのか、実施しながら考えていきたいと思っておりますので、平成 30 年度、この項目の目標値に組み込むことについても妥当であると捉えています。

続きまして、27 頁に記載のある実施目標について、ご説明いたします。実施目標は、年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。展示会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。の 3 項目です。これらについて、いずれも積極的に取り組んできたことから、一次評価を Aといたしました。

事業別に見ますと、継続事業である「みんなのアトリエ」では、内容と広報手段の 2 つの面で取り組みを強化し、参加者数の伸びにつなげることができました。

また、これまで様々な形でリサーチを重ねてきた、視覚障害者を対象とする鑑賞サポートについて、平成 30 年度は、横須賀市点字図書館と連携した「視覚障害者のための出張鑑賞会」を開催することによって、一定の手ごたえを得ることができました。

このようなことから、平成 30 年度は、この項目に位置付けられた個々の事業について、いずれも充実した内容で実施し、かつ今後の展開に向けた足がかりを得ることができたと捉えております。参考資料集の 80 頁から 90 頁に、これらの事業の事業報告書を掲載しておりますので、のちほどお目通しください。⑦についての説明は以上でございます。

ます。

[小林委員長]：ありがとうございます。この「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える」について、二次評価で、他館関連事業との関連性、あるいは目標値との関連性について、菊池委員が記載されているところを説明していただけますか。

[菊池委員]：先ほどの事務局の方からの説明で、大体分かったのですが、この360人以上という目標の中で、基本の事業とオプションの事業をいっしょくたにして360人以上というのがどうかと思います。

たとえば、未就学児向け事業までのところで360人以上、MULPAとして何人以上、など。

つまり、この「他館連携事業」というものの主体がどこにあるのかなということなのです。独自の事業であれば、独自の努力ですべてが解決することになりますが、他館との連携を考慮しながら行うとなると、目標を設定しても、どうにもできなくなるということを懸念しています。それならば、基本の目標と、そこにオプションとして、横須賀美術館の魅力の一つのプラスアルファとして、それが成功すれば評価に関わってくるのか。

つまり、未就学児向け事業までのところで区切って「360人以上」とする考え方はできるのですか。

[事務局・富田]：数字の上でそこで区切ることは、もちろんできるわけですが、このMULPAについては、平成30年度以降は各館で企画し事業を運営して、それをMULPAという括りにつなげていきながら、全体でゆるく成果を共有するという形になっております。そういう意味では、平成30年度のMULPA関連事業も、内容的には当館が企画したもので、他の事業と同様、募集に関しても当館が主体的に独自の広報ルートを使って行っております。そうした点が、MULPA関連事業への参加者を当館の目標値に組み入れてもいいのではないかと判断した理由です。

もう一つは、限りある予算で新規事業に手をつけにくい中、県の財団から出る事業費で新しい試みを行い、いずれは当館の自主事業として育てていきたいというのがMULPAとの関わり方ですので、今の時点でそれを他の自主事業と同列で目標値に組み入れていくことに、特に違和感はなかったのです。

[菊池委員]：流動性の高いものというか、いい意味での遊びとして、そういうことを持つのはいいのですが、ただMULPAをやっていない平成27年度や平成28年度も目標値が360人だったとすれば、その基準は守ったほうがいいのかと思ったのです。

[事務局・富田]：実は、MULPAが始まるのとちょうど同じくらいの時期に、託児の人数を目標値からはずしていますので、そのあたりはちょっと、単純な数字の差し引きにはならないところかと思えます。

[菊池委員]：確かに、この⑦はすごく幅広くいろいろな事業が含まれるところだと思います。だから、良い意味での遊びも必要ですし、これからもいろんな事業が加算されていくところなのだろうなどは思うのですが、定番でやっているのは、ここからここまで、として、そこまでを目標値に組み入れる、そこから先はオプションというのでも、良いのではないかと思います。

[小林委員長]：美術館としても、ある意味、それで助かる部分もあるのではないのでしょうか。そのほうが評価は高くなりますし。そういう視点を参考にいただければと思います。

[事務局・富田]：令和2年度まではこの形が続きますので、そこまでは、MULPA を目標値に入れた形にさせていただいて、そのあと、そこからまた、事業が減ったので目標値を下げるとか、そのままにするとか、そのあたりをもう一度ご助言いただけたらと思うのですが、いかがでしょうか。

[小林委員長]：せっかくやっても、それが評価に結び付かないと残念ですから、そういうことも参考としていただいて。では、評価については、Aということによろしいですか。

(異議なし)

[小林委員長]：では達成目標の二次評価はAをお願いします。  
次に目標について、柏木委員がSをつけています。これは、やはりここでの取り組みを評価してのことだと思いますが、お話しいただけますか。

[柏木委員]：数値目標については、いま菊池委員からご指摘があったような課題があるのかと思います。

また、数値目標については、事務局から示された基準に則って評価せざるを得ない部分がありますけれども、私自身は、こちらの館の普及的な活動については、先ほどの学校連携のところでもSをつけたように、全体に高く評価をしております。平成30年度もやはり、みんなのアトリエという恒常的に行っておられる事業を今一度見直しされたり、福祉イベントについてもアウトリーチに取り組みされたり、MULPAについても、自主財源だけでなく外部から財源を取り入れて意欲的に取り組むということをやっておられて、限られた人的資源の中でかなり高い水準のことを行っていると思いますので、実施目標については高い評価をつけています。

[小林委員長]：本当にそうですね。非常によくやっておられますね。  
話は変わりますが、横浜市は、福祉先進都市なのですが、美術館の場合、美術館のなかでの福祉活動はどのように位置付けられているのですか。

〔柏木委員〕：横浜美術館の場合は、こちらと違うのは展覧会を企画する学芸員と、教育普及を行うスタッフとが分かれています。開館当時から専門分化していて、さらに鑑賞教育については専門の部署があって、そちらが独自の福祉的な観点で事業に組んでおり、努力しています。外部財源を受けて取り組んでいることもあります。

〔小林委員長〕：そうですね、横須賀美術館もこの領域、頑張っておられると思います。祓川委員さん、いかがでしょうか。「Sに近いAだと思う」と書いておられますが。

〔祓川委員〕：ボランティアに関しても、ボランティアは皆、健常者なものですから、何が必要なのか分からないと思います。それに対して、専門家を呼んで私たちに向けたレクチャーをしてくれたり、身をもってワークショップで体験させてくれたりすることが多いです。その際に呼んでいただく専門家も、学芸員さんたちは、すごい人脈だな、と思います。そういう努力に対して、Sに近いAとしました。

〔小林委員長〕：わかりました。ただ、非常に評価は高いですが、全体的に見るとAという評価の人が多いので、実施目標に関する二次評価はAということで、よろしいですか。

(異議なし)

〔小林委員長〕：最後になりましたが、「⑧事業の質を担保しながら経営的な視点を持って効率的に運営・管理する」という項目について、よろしくをお願いします。

〔事務局・小川〕：「⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」の一次評価について、説明いたします。

評価報告書の29頁、二次評価まとめ8頁をご覧ください。

まず、達成目標についてですが、平成30年度の達成目標は、『電気・水道・事務用紙などの使用量を直近3年間の平均値を目安とする』でした。

頁中段の表にありますように、電気使用量、水道使用量は目標を達成できませんでした。使用量が増加した原因は、昨年の夏季の猛暑により空調設備の稼働が増加したことが主な原因と考えています。

事務用紙使用枚数については目標を達成しましたが、電気使用量、水道使用量が目標を達成していないことから一次評価はBとしました。

続いて、実施目標「職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む」につきまして、実施目標の一次評価はA評価としました。理由としましては、予算の執行において、複数事業者からの見積書徴取や競争入札を行うなど、業務の質を落とさない範囲で経費削減にも努めており、職員のコスト意識が高く保たれていると感じているためです。

⑧の説明は以上です。

〔小林委員長〕：事務局から説明いただきましたが、二次評価でコメントをいただいて



いる菊池委員をお願いします。

〔菊池委員〕：目安ということで表現を曖昧にしていますが、電気使用量、水道使用量は来館者数や天候の影響もありますので、あまり厳密にするのはどうかと思います。逆にマイナスになった時にどの程度が目安なのかと思い、自分なりにシミュレーションしたところ大体3パーセントくらいが誤差の目安と捉え、それを超えていたので一次評価と同じB評価としていいのかと思いましたが、決して努力していないとは思っていませんが、数値的な面を見てBとしました。

〔小林委員長〕：これは一つの考え方だと思いますので考慮してください。  
柏木委員はどうでしょうか。

〔柏木委員〕：事務局からの説明もあり菊池委員からのお話もありましたが、非常に外的要件で左右されるものなので、何が適切な目標値なのかよく見えない、⑧に書いてある通り経営的な視点をもって効率的な運営がされているのかを、いかにマネージされているかを見ていくべきだと思います。

美術館は美術品を保管しそれを見せる場所ですから、空調にはお金がかかる訳です、それは疎かにはできないわけです、目標値の設定はもう少し研究してもいい気がします。

〔小林委員長〕：ありがとうございました、草川委員いかがでしょうか。

〔草川委員〕：実際私たちのホテルも昨年度は電気、水道使用量については今年の夏の猛暑でかなり増えました、その観点で見ますと私見ですが、数字的な面は仕方ないのかなと思います、その中で皆さんは契約電力を見直すなど経費削減の努力されているのかと思います。皆さん努力されていますので達成目標と実施目標トータルで考えてもいいのかと思っています。

〔小林委員長〕：目安の設定は猛暑など気候に影響されるので難しいと思います、3年の平均と簡単に考えてしまいますと予算上説明がつかないと思います。

かなり難しい問題を含んでいると思いますが、ただ本当によくやられていると思いますし、美術館側では課題を正確に把握していると思います。ここはA評価の委員もいらっしゃいますが、美術館の一次評価を踏まえ、全体ではB評価としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

〔小林委員長〕：次の実施目標である「職員すべてが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む」という実施目標について、皆さんAが付いていますが、何かご意見あるでしょうか。

〔小林委員長〕：特にご意見がないようですので、実施目標についてはAでよろしいでしょうか。

（異議なし）

〔小林委員長〕：それでは⑧の事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理するについては、二次評価達成目標はB、実施目標はAとします。他に全体で何かご意見ありますか。

〔小林委員長〕：それでは議事の（1）については終了させていただきます。事務局をお願いします。

〔事務局・菅野課長〕：本日の確定内容をまとめ、評価報告書に加えまして、出来上がり次第、各委員に送付させていただきます。

皆様には、最終のご確認をいただき、修正等ございましたら、朱書き等訂正によりご返送いただきたくお願い申し上げます。その後は、委員長一任として完成としたいと考えます。

〔小林委員長〕：委員の皆様、よろしいでしょうか。

（異議なし）

#### 【議事（2）平成31年度の事業計画書について】

〔小林委員長〕：それでは、議事を進めます。

「議事（2）平成31年度の事業計画書について」、事務局は資料の確認及び説明をお願いします。

〔事務局・高橋〕：平成31年度事業計画書について、説明をさせていただきます。

本年3月に開催した本委員会でご意見をいただき、完成したものが、本日配布させていただきました、資料2「平成31年度 横須賀美術館 事業計画書」となっております。

3月でご審議いただいた事業計画書案では平成30年度の数値が1月末時点での数値となっていましたので、その数字を3月末の確定値に変更しております。

また、本資料は元号が変更となる以前の4月に完成しておりますので、元号が平成と表記がされています、5月1日以降については、新元号の令和に置き換えていただきますようお願いいたします。

それ以外の修正はございませんので、後程ご覧いただければと思います。

平成 31 年度の事業計画書については以上です。

[小林委員長]：質問はありますか。

特に質問はないので、次の「3 その他（1）今後のスケジュールについて」事務局から説明をお願いします。

[事務局・鈴木]：それでは、資料3 運営評価委員会スケジュールをご覧ください。

まず、本日の第一回会議でご議論いただき決定した二次評価を基に、平成 30 年度評価報告書を作成し、委員の皆様へ郵送にて確認のお願いをいたします。委員の皆様から、承認をいただいた上で、評価報告書が確定します。確定した評価報告書は、その後、教育委員会定例会への報告を経て、公開の運びとなります。

また、表の下段からの、今年度の事業計画につきましては、本日お配りした事業計画書を基に令和元年度の事業を実施し、第 2 回会議で、中間報告を行い、第 3 回会議で令和 2 年度事業計画へという流れで進めてまいります。

今後のスケジュールについては、以上となります。

[小林委員長]：今後の予定について何かご質問ありませんか。ご意見無いようですので、事務局は、スケジュールにそって準備を進めてください。事務局へお返しします。よろしくをお願いします。

[事務局・菅野課長]：事務局から連絡事項はございません。長時間に渡りご審議いただき、ありがとうございました。

また、委員の皆様につきましては委員の任期が、今年の 9 月末までの 2 年間となっていますので現任期では最後の委員会となります。今まで本当にありがとうございました。今後も横須賀美術館をよろしくをお願いします。

[事務局・高橋]：以上をもちまして会議は終了となります。